産学交流セミナー
「職業としてのデザイン職のありよう」

学生を対象とした、アパレル業界、服地業界、インテリア／ホームファッション業界での就業ガイダンスと就職情報の提供を目的としたセミナーが開催された。

平成10年11月28日、女子美術短大（東京・杉並キャンパス）において、TDA人材育成委員会と教育委員会、女子美術大学就職課との共催で行われ、聴者は130名であった。聴者には学生の他に、大学や専門学校の教職員、既就業の委員などの姿が目についた。

当日のレクチャラーは、TDA会員である豊方康人、福田行雄、古屋興一、吉村東一、野末和志の各氏。進行は荒井健氏（女子美術短大、教授）で、２時間におよぶレクチャーの要旨は次のようである。

◎勤務デザイナーは、企業に利益を生むデザインをすること。

（吉村氏…泰道リビング㈱ 開発部商品開発課課長）

a．いいデザインであるのは当たり前。いいデザインでも売れないものがある。売れるものをつくること。
b．自分がやりたい分野、仕事をハッキリしておくこと。
c．会話ができること。
d．企業を活用して、自分を磨くこと。

◎フリーランサーには、注意してくれる人がいない。

（豊方氏…㈱アトリエ アイディ代表取締役）

a．YES，NOの判断、金額の決断などを一人で行うことになる。
b．デザイン事務所の運営には、経費が想像以上にかかる。
c．人とのつながりを大事にすること。
d．先を読めること。
e．客をよく知ること。

◎なんとなくやっている人には、ツライ仕事だ。

―― サラリーマン・デザイナーの場合。

（福田氏…東リ㈱ 商品本部商品企画部カーテングループ副参事）

a．雇用するとその人の給料以外にも経費が、企業にかかる。
b．自分の仕事に対する能力のタイプを自覚すること。
c．自分と企業とのズレをバランスとること。
d．何故、デザインをしたいのか、がハッキリしているか。
e．キラキラと目が輝いているか。

◎図案は描けない。企業のデザイン職になると。

（古屋氏…古屋興一デザイン事務所）

a．デザインワークの始まりから終わりまでを、自分一人でやることはなく、その一部を分担する。
b．希望分野で職を得られなくても、やっているうちに道はひらける。

◎明日は、業界の構造が変わっているだろう。

（野末氏…㈲企画屋えぬ 代表取締役）

a．世界中のデザイン活動が日本に侵入し、私たちはそれらと競合状態におかれている。グローバリゼーションの渦の中にいる。
b．取引先が競合相手となったり、競合相手にするなど、業種・業態の境が失なわれつつある。ボーダーレスが進行している。数年後には入社時と変わっているだろう。
c．ヨーロッパ型ファミリー企業化が、日本の産地の生産者の姿になるかもしれない。とすると、ファミリーの一員となり腕をふるうことも……。
d．自分で自分を雇用すること。自分で仕事を創作すること。雇用先が激減しているのだから。
e．職業能力をつける自己投資をすること。能力を現有している者だけにチャンスあり。自分の生き方をデザインすること。

これらは、配布したファッション系業界構造図、インテリア／ホームファッション系業界構造図、デザイン職の職種分類図にもとずいて行われた。

教師が認識すること、それが先だ。

レクチャラー全員の意見は〝大学、短大、専門学校の教師が、本日のテーマと内容について、謙虚に認識すべきだ〟と事後のミーティングで一致した。

同様のことは、参加したA大学で教鞭をとる方の口からもうかがえた。

（リポート　野末 和志）